


たが

第134号 2012年8月

こんにちは 
議会です!!



- ・ 6月定例議会 2
- ・ 町長所信表明 3
- ・ 臨時議会 4
- ・ 全員協議会 5
- ・ 各常任委員会 6
- ・ 一般質問11議員が問う 8
- ・ たがとともに 16

町民総参加のもとに 力強い行政を推進

久保町長 所信表明 (6月定例議会初日)



手作り料理に励む子どもたち



町長
久保 久良

若い世代が未来に希望の
持てるまちづくりを実現

希望の持てるまちづくり

将来を担う子どもたちが、この郷土を愛し、安心して過ごせる日々の暮らしの実感を保障していくところに希望の持てる未来があり、全ての人が生き生きと活躍している町をめざします。

子育て支援の充実

「子ども家庭応援センター」の機能も子ども支援の総合窓口として定着してまいりました。幼児を育む環境の整備や適正な職員の配置を行い、安心感の持てる保育環境の充実を図ります。

学校教育の充実

単独費での教員や教育支援員の増員、中学校給食の実施、施設の改修や充実など児童生徒の安心安全な教育環境の充実に努めます。

中学校卒業までの医療費無料化

高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や家庭で自立した生活が維持できよう支援体制の充実に努めます。

環境に配慮したまちづくり

今年度は、義務教育終了時点である中学校卒業までの医療費無料化の早期実現をめざして、関係機関との協議を進めてまいります。

林業・環境への取り組みの推進

林業では、森林の活用と保全を基調とし、将来を見据えての資源循環型の社会を構築するなど、町として、先んじて取り組んでいけるものについて検討を始めます。

生活基盤の充実

また、住宅リフォーム事業は、継続して地域経済の活性化に努めます。 芹谷栗栖地域の生活基盤の整備、家屋改修事業の継続、コミュニティ施設の整備などを進めます。 町が管理する町道橋は長寿命化修繕計画に基づいて、持続可能な活用ができるよう取り組みを開始します。 防災面では、字や地域の自主防災機能を強化するための方策も検討してまいります。



芹谷地域道路拡幅工事

一般会計3,273万円を補正 備蓄施設の整備など 防災基盤の充実

6月定例議会は、6月8日から22日までの15日間で開催した。諮問1件、同意2件、補正予算1件、条例1件、専決処分8件、その他の報告など審議し、すべて可決した。

6月定例議会

補正予算

一般会計	3,273万円を追加
歳入の主なもの	県補助金(子育て支援) (緊急雇用対策) 846万円
前年度繰越金	897万円
町債(緊急防災・減災事業債)	1,530万円
歳出の主なもの	菅原防火水槽ほか 1,500万円
図書館費など	603万円
公園・ITシステム導入委託	612万円
子ども手当システム開発委託	233万円
パイプハウス補助金	54万円
国民年金・福祉医療助成	63万円
湖東定住自立圏病児病後児保育事業負担金	19万円

条例

課設置条例等の一部改正
外国人登録制度廃止に伴う印鑑条例の改正
手数料条例の改正

専決処分

一般会計	4,938万円を増額
国民健康保険特別会計	2,673万円を減額
介護保険事業特別会計	4,595万円を減額
後期高齢者医療事業特別会計	400万円を増額
芹谷栗栖地域振興事業特別会計	400万円を増額
下水道事業特別会計	300万円を減額
農業集落排水事業特別会計	100万円を減額
固定資産税の不均一課税条例の一部改正	適用期限の延長

報告

平成23年度繰越明許費〔一般会計〕
庁舎耐震補強・電源整備
1億6,596万円
町道久徳中川原線整備
6,553万円
町道多賀第2工業団地線整備
1億9,944万円
地方特定道路整備
2,009万円
彦根市消防救急デジタ
ル無線整備
682万円
原子力災害避難マニユアル等作成事業
325万円
各小学校空調設備整備
997.5万円
中学校技術棟耐震・工
コ改修事業
805.9万円
林業施設災害復旧事業
305万円

特別委員会設置

平成24年3月末でダム建設特別委員会が消滅した。改めてダム対策特別委員会を議会で提案し、採決の結果可決した。 委員長に土田一善議員を選出 副委員長に菅森照雄議員を選出

臨時議会

4月18日、第2回臨時議会を開催した。条例2件、専決処分1件を審議し、すべて可決した。

条例

税条例の一部改正
町民税の申告にあたって、手続きの簡素化を図るため、寡婦（寡夫）控除を受けようとするときの申告書の提出を不要とするもの。

専決処分

税条例の一部改正
固定資産税の住宅用地に係る特例措置を廃止するにあたって、平成24年度、25年度に限って経過措置を設けるもの。

改正

介護保険条例の一部を
県財政安定化基金の取り崩し
多賀町分：567万円
多賀町準備積立基金の取り崩し
第4期中の基金積立額の一部を取り崩すことにより、保険料上昇を抑制する。（基金残高見込額3347万円）

第一号被保険者負担率
第4期の第一号被保険者（65歳以上）負担率は20%、第5期は21%
市町村特別給付（紙おむつ給付事業）
第5期も市町村特別給付第一号被保険者の保険料で継続実施

介護報酬の改定
改定率+1.2%
（在宅+1.0%）
（施設+0.2%）
介護報酬の地域区分
第4期はその他地域（0%）第5期から6級地（3%）に移行

所得段階7段階
（地域区分と介護報酬改定など）
第4期は5段階で基準額3980円が、第5期は7段階で基準額4700円（720円増）

5月24日、第3回臨時議会を開催した。予算1件、条例2件、その他の議案を審議し、すべて可決した。

ひとくちメモ
「専決処分」
地方自治法第179条に基づく専決処分
議会が議決をしなければならぬ条例・予算などについて、町長が議会を招集する暇がない緊急の場合に、町長が議会に代わって処理を行うことです。
この場合、次の議会に報告し承認を求める必要があります。

条例

町長、副町長、教育長の期末手当10%減額
議員の期末手当5%減額

補正予算

工業団地造成特別会計
歳入の主なもの
不動産売却収入
3億1170万円

その他

多賀第2工業団地売買契約
歳出の主なもの
長期債元金繰上償還
3億9780万円
長期債利子
370万円

処分の土地
所在地：多賀字車戸
地目
宅地
地積
2万179㎡
処分予定価格
3億7117万円
売却相手先
フジングループ本社
株式会社

多賀第2工業団地 フジパンに売却

全員協議会

議会改革

- 分権社会にふさわしい自治を創造して取り組む改革
- 自治体としての自主、自立性が発揮できる改革
- 社会の変化と町民の多様なニーズへの対応
- 議員の意識改革

6月11日開催の全員協議会は、議会改革が主議題となった。

今年の2月10日にまとめた中間報告の内容は、第一に議会改革の考え方、第二に改革のテーマ、第三に改革に向けて取り組んだ研究・協議と改善の内容に大分している。

議会改革の考え方では、今日、分権社会の流れの中で、国はこれまでの地方分権改革から地域主権改革に移行し、第二次分権改革を進めようとしている。また、地方公共団体も行政と議会が合理的かつ効率的な自治運営をめざした改革が求められている。

本町においても、行政は平成22年度から行政改革を進めており、一方、議会においても議会規律、議会運営、議会事務局の業務などについて、事務の内容を検証し、議会改革を進める必要性がある。

改革のテーマでは、多賀町の中長期的な将来の自治のあり方を創造した改革理念として「創造と改革」を掲げ、上記を取り組むべきテーマとしている。

改革に向けて取り組んだ研究・協議と改善の内容では、協議中のものとして、すでに実施している事項に区分している。

その中で協議中のものは、議員定数、議員報酬、通年議会制の研究、議会基本条例の研究、議員研修、コンプライアンスほか二十数件

協議中のもの

すでに実施している事項は、申し合わせ事項の改正、質疑または一般質問（一問一答方式の採用ほか）、会議録の作成、研修の復命ほか十数件

実施しているもの

議会の傍聴

今後の課題

今後はこの中間報告を基に、町民に開かれた議会、分かりやすい議会をめざし、全員協議会の中で、議会改革の勉強会を行い、議員間での自由討議を重ね、その中で具現化できるものから随時実施していく考えである。

あわせて町民の皆さんのご意見や情報を交換する場づくりにも努め、ともに考え、ともに行動できる体制を一日も早く

ぜひ、議会の傍聴してください。
次回の一般質問は9月7日の予定です。



議会改革勉強会

総務

多賀の子どもは
10年前に比べ

中学生 85人減少
小学生 46人減少

5月22日、教育委員会所管の委員会を開催。各教育施設の視察を行い、24年度の教育行政方針や事業の概要などの説明を受けた。

教育委員会からの説明

学校教育方針では、学校の柱として、確かな学力を育む教育の推進、豊かな心を育む教育の推進、健康な心身を育む食育教育の充実

学校教育、社会教育、家庭教育を推進し、「未来にはばたく心豊かたたくましい人づくりを」めざすとしている。

教育施設の主な工事計画

中学校技術棟耐震補強改造工事（緑越事業）
多賀小、大滝小エアコン設置工事（緑越事業）
多賀幼稚園エアコン設置工事
たきのみや保育園グラ

奨学資金の制度は、

給付型で、生活支援とされているので、教育としての運用目的が必要でないか。卒業したら、成果を検証しボランティアなど社会貢献を義務づけてはどうか。

質疑応答

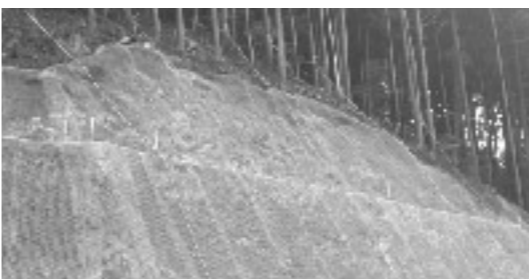
問 全国的に通学路での交通事故が多発している。通学路の安全点検は。

答 5月中に危険箇所を点検、見直しの準備作業を進め、彦根警察署とともに点検を行った。児童が横断する信号の時間などを調整、検討している。また、特に高学年に頼りがちな年少の子どもたちの交通安全意識を徹底していきたい。

ダム対策特別委員会

6月13日に開催し、芹谷治水ダム対策事業の経過報告を受けた。

また、芹谷地域振興計画基本方針、地域振興推進プラン、地域振興アクションプラン、24年度芹谷栗栖地域振興事業の調査を行い、その後、現地視察した。



水谷地区急傾斜対策工事

中学校生徒数	213人	対前年比	17人
小学校生徒数	424人	対前年比	2人
幼稚園児数	48人	対前年比	2人
保育園児数	178人	対前年比	11人
平成14年対比（10年前）			
中学生	85人		
小学生	46人		

産業建設

工場用地の進入路整備
県も応分を負担

第2工業団地 造成工事 5月10日完了
道路工事 5月25日完了
土地売買契約 5月28日



多賀小学校視察

5月2日、地域整備課所管の委員会を開催。24年度の事業と前年度からの緑越事業の説明を受け、その後現地視察した。

地域整備課からの説明

24年度建設事業と前年度からの緑越事業、24年度水道事業と前年度からの緑越事業、24年度芹谷栗栖振興事業、24年度湖東土木事務所所管土木事業計画の主な工事は、左表のとおり。

質疑応答

問 点改良で、公安委員会との協議では右折溜りが必要と聞いていたが。

答 協議の結果、必要がなくなつた。公安委員会も了承している。

地積調査

問 地籍調査は今後も継続していく計画か。

答 さらに各集落に広めたい。

質疑応答

問 補助事業の地籍調査は国が4分の3の補助で、町は5%ぐらいの負担と

の説明であるが、今後補助事業として続けられるのか。

答 以前から補助事業としてあるもので、続いていくものと思う。

「お詫びと訂正」
本議会広報第133号（前号）で誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
5頁のサブタイトルで、「平成24年度～平成33年度10年間」を「平成26年度～平成35年度10年間」に訂正
13頁の2段目の3行目の「現状では多賀大社前駅だけの集落…」を「現状では多賀大社前だけの集落…」に訂正



多賀第2工業団地フジパン建設工事

道路改良

問 国道306号線から多賀第2工業団地進入路整備費の県の負担はどのようになっているのか。

答 県内部で検討され、町の要望どおりになるものと思っっている。

道路改良事業	
町道久徳中川原線月之木地先工事（緑越事業）	
町道小森池線富之尾地先工事（緑越事業）	
町道多賀第2工業団地線多賀地先工事（緑越事業）	
町道榑崎八号線榑崎地先工事（舗道工事）	
橋梁長寿命化事業	
橋梁長寿命化工事（大君ヶ畑地先、榑崎地先）	
上水道事業	
仏ヶ後浄水場新設工事（緑越事業）	
大杉地区送配水管布設替工事（緑越事業）	
大君ヶ畑地区配水管布設替工事	
多賀地区配水管布設替工事	
地籍調査事業	
富之尾地区	
芹谷栗栖振興事業	
水谷地区家屋改築、合併処理浄化槽設置工事	
水谷地区集落景観保全・排水路整備工事	
水谷地区集落道路整備工事	
水谷地区上水道整備工事	
河川事業	
赤田川久徳地先護岸工事	
犬上川霜ヶ原地先護岸工事	
犬上川敏満寺地先河道内の草木代採、河床整正工事	
砂防事業	
木曾・滝谷地先堰堤工、管理用通路工事	
萱原谷堰堤工補償工事、用地買収	
細谷・佐目地先測量、立木調査と補償、用地買収	
萱原地区簡易吹付け法枠工事	

印は湖東土木事務所所管土木事業計画

- 1 富永 勉議員……………P 9
地域農業に積極的な支援を

- 2 北川 久二議員……………P 9
衰退が著しい林業の今後は

- 3 山口 久男議員……………P10
原発から撤退し、再生可能エネルギーへ
放課後児童クラブの拡充を
質の高い給食を

- 4 土田 一善議員……………P11
通学路の点検の結果は
農業従事者への支援体制は
有線テレビを布設する考えは

- 5 大橋 富造議員……………P12
自然エネルギーへの転換を
芹川の治水対策は
地震対策は

- 6 竹内 薫議員……………P12
獣害で森林産業が危機に

- 7 深田 治夫議員……………P13
車とシカの衝突事故多発
藤瀬高取から愛荘町斧磨間の道路改良を
町道の官民境界は
滝の宮グラウンドにナイター設備の設置を

- 8 菅森 照雄議員……………P14
就労前の障がいをもつ子どもたちへの支援を

- 9 原田 亀雄議員……………P14
多賀町総合計画の周知は

- 10 川岸 真喜議員……………P15
橋梁長寿命化工事と林道の整備は
地域医療体制の整備を

- 11 田畑 喜久弘議員……………P15
新たな道路拡充策は
保護すべき景観は
史跡の公園化は
圏域図書館の多様なネットワーク構築事業は

地域農業に積極的な支援を —町長— 人・農地プランを作成する



富永 勉 議員

本町の農業就業人口は減少し、平均年齢も年々高くなっている。また、地域農業を支えてきた農家の高齢化と、若い世代の流出が急速に進んでいる。

ここで考えるべき方向性は、農業者の所得確保と担い手の育成を図ることであり、農地を守り、次世代に地域農業を継承することが重要課題である。

町は積極的な支援と今後の地域農業をどのように考えているか、またその方向性は。

町長 地域農業への支援としては、農業の基盤づくりに努めてきた。獣害対策として電気柵の設置、山間地域での耕作放棄地防止のための事業、特産物に対する生産奨励金などである。高齢化や就業人口の減少などの問題に対応するため、農業者、JA、地元企業、学校などと共同して、5年後、10年後を見据えた「人・農地プラン」の作成に向けて取り組み、その中で農業者の所得確保や担い手の育成について検討していく。



出荷前のニンジン



衰退が著しい林業の今後は —町長— 町内産木材を活用する

多賀町の農業を守り、地域住民の皆さんが安心して農業を営んでいたける環境をさらに整備していく。それが行政の役目と考える。

今後は地元食材を食育教育、学校給食や企業の生産材料として提供していくよう努める。



麒麟ビール水源の森

町長は2期目の町政について所信表明された。林業施策で「森林は国土保全、水源涵養、自然環境保全など公益的機能を有する重要な資源と位置付け、森林の活用と保全

北川 久二 議員

や資源循環型社会の構築に取り組み」と言われた。衰退が著しい林業の施策について。

森林の活用と保全の今後の取り組みは、資源循環型社会の構築の具体策は、早期に取り組み可能な内容は何か。

町長 町は森林整備計画を策定し、森林の公益的機能を高める施策を国・県と連携して進めていく。具体的には、間伐による保育、獣害対策を行う。資源循環型社会の構築に向けて、間伐材を建築材として、未利用材を燃料として利用する。

現在、高取山ふれあい公園においてペレットを製造している。今後も町内産木材の利用に努める。

通学路の点検の結果は

—教育長— **地域のみなさんと
学校安全に努める**



土田 一善 議員



登校中のスクールガード

通学路の安全施設の点検を実施したと聞いたが町内全域の結果と改善について具体的に聞きたい。

教育長
登下校中における子どもたちの安全確保については町も最優先で取り組んでいる。

通学路については、学校の教職員が点検し、危険箇所などについて報告を受けている。不審者の出没や、猿などの獣害被害が予想される箇所を子どもたちと確認して、安全マップを作成した。特に、県道多賀高宮線

の名神高速ガード付近は危険が指摘されている。関係機関と協議を進め、三差路にカーブミラーの設置を検討していく。

中学生の自転車通学についても、安全指導の必要が指摘されている。ヘルメットの着用、雨天時の雨具の使用などを指導して、自転車による事故防止に努めていく。

今後、PTA、地域の方々、スクールガードの方々に対し、学校安全のための協力を依頼する。また、関係機関と協力して危険箇所の改善に取り組んでいく。

副町長
農家への支援制度として、国は戸別所得補償制度や、認定農業者向けの機械購入支援制度を実施している。町としても、生産体制の充実に向けて農家の方々の情報交換、相談活動に取り組む。普及員制度については

**有線テレビを
布設する考えは**
町内全域に設置されている有線放送を、有線テレビに切りかえることはできないか。町内の情報発信の原点であると思う。いつまでも旧態依然とした現状を打破すべきと考えている。

現在、情報発信の媒体として有線放送、広報、チラシなどが用いられているが、緊急性からすると不十分である。災害、防犯情報などを迅速かつ確実に提供するためには、さらに有利な情報発信をめざす。



トマトのハウス栽培

農業従事者への 支援体制は

農家を支援する制度や体制がわかりにくい。行政は何をしているかがわかるように具体的に示してもらいたい。

町職員の行動を現地で見るのがない。農家自ら勉強し友達型経営で維持している。農協の指導と連携に頼っている。

昔のように農業普及員制度を町独自で創設する考えはないか。

特に、農業者表彰制度を創設する考えはないか。

県職員の派遣制度を利用して、専門知識を持った職員を派遣を要望する。表彰制度については、優秀な農業者に対し、さらなる励みとなるよう、創設について関係機関と協議していく。

現時点では困難 企画課長

テレビ放送については長浜市、東近江市などが民間委託形式で取り組んでいる。しかし初期投資に数億から数十億円かかり、維持費に年間数千万円を必要とすることから現時点の本町の財政規模からは困難である。

原発から撤退し、 再生可能エネルギーへ 利活用させる仕組みを構築

—町長—

山口 久男 議員



政府は、大飯原発再稼働を決めたが再稼働に反対。原発からの撤退の政治決断をすべき、町長の見解は。

再生可能エネルギーの本格的導入は、エネルギーの自給率を高め、新たな仕事と雇用を生み出し、地域経済の振興策となる。

多賀町は、豊かな森林資源や河川がある。小水力発電、木材を利用した

バイオマスエネルギーなどの開発普及の考えは。太陽光発電システムへの一般家庭への補助制度の創設、公共施設への設置の考えは。

町長
万が一の原発事故への不安をぬぐい切れないでいるのが現在の心境。

地元産材の住宅材としての利用、木工製品としての利用とともに、その端材や製材から出るおがくずなどの未利用材を燃料として利用する取り組みを進めていく。

周辺自治体の導入状況を参考に、要件などを整理しながら、補助制度の創設に向け検討したい。来年度以降、公共施設に設置できるよう検討する。

放課後児童クラブ の拡充を

学童保育は、保護者の子育て支援、児童の健全育成対策として、重要な

役割を果たしている。学童保育の運営状況と待機児童の問題などの解決策はどうか。

清涼ファミリースターシヨンの一ヶ所での対応できるのか、増設の考えは。小学校3年までが原則となっているが、障がい児、4年生以上にも拡充する考えは。

指導員の待遇改善と併せて増員計画があるか。

**待機児童は3人
今後一ヶ所で運営
生涯学習課長**
受け入れ児童数は、多賀小37人、大滝小8人で定員45人と同数、待機児童は3人となっている。

児童の状況、指導員の体制を再点検し待機児童の解消に努めたい。

施設として十分な面積と設備があり、今後も町内一ヶ所での運営をする。障がいのある児童や特別な事由がある場合は6年生まで対象としており、

献立の作成にあたり、最初から町の栄養教諭が関われないか。

**学校給食委員会
で検討
教育次長**
委託業者との契約の中で、食品衛生法の基準に適合した材料を使用。点検体制は地場産物活用状況調査を実施しており、その過程で確認する。

学校給食委員会を定期的に開催し、保護者・学校からの意見などを聞きながら今後も対応したい。多賀中学校給食献立委員会の設置を進めている。



中学校ランチルーム給食

質の高い給食を
中学校給食も調理業務が民間委託であり、質の良い給食を提供するための改善策は。

手作りの給食、地元野菜の使用有無など確認、点検体制は整っているか。保護者からの要望を伝える協議機関を作る考えはどうか。

今後この対象年齢で実施。学童保育を利用する児童の状況を考慮しながら児童の安全を確保できる職員体制の確保に努めたい。

車とシカの衝突事故多発

—町長— 注意を呼びかける 看板の設置

深田 治夫 議員



佐目、敏満寺線の県道で自動車とシカの衝突事故が多発している。対策として進入防止柵を設置できないか。補償など要求されかねない。危なく人間が住めないなどと若者が定住しない事態になりかねない。

町長は快適に暮らすための生活基盤の充実を図ると述べられているがどのような解決策をされるのか。



整備が待たれる林道

藤瀬高取から愛荘町 斧磨間の道路改良を

この道路は、多賀町と愛荘町とを結ぶ唯一の幹線道路である。

名神高速道路に愛荘スマートインターができてつある。その客を斧磨を通じて高取山ふれあい公園に誘導する唯一の道路であり、すでに愛荘側はコンクリート舗装が途中まで済んでいる。

多賀町側は何にもでき

ていない。

まず舗装をし、両町が連絡を密にして取り組みができないか、それによつて高取山ふれあい公園が観光面で一躍脚光を浴びると思われるが。

経過を踏まえ判断

町長 愛荘町斧磨への道路は、多賀町と斧磨との連絡のため造林作業道として作られ、全長1.5kmの内90mが多賀町領域である。

愛荘町との協議も必要であるとともに、狭幅員と電柵扉もあり、来園者に不満を与えかねない。

しかし、愛荘町が積極的に準備をされるのであれば、町としても検討しなければならぬ。斧磨地区の皆さんの思いや道路整備計画もあるので、協議経過を踏まえ判断したい。

町道の官民境界は

尺仏から大滝幼稚園までの町道敷の中に境界プロックが敷きつめられている。普通なら法面の上または、下に入るものである。

理解に苦しむ。町道に払い下げの前は県道で、県と協議の上決められたのかどうか。

滝の宮グラウンドにナイター設備の設置を

町内の少年野球チームが、滝の宮グラウンドをホームグラウンドとして練習を重ね、毎年のように県大会、近畿大会、西日本大会でも優勝し、さらには全国大会でも二位三位の成績を残して、全国に多賀町の名を有名にしてくれている。この実績からしてもぜひナイター設備の設置を。

町長 実績は、高く評価されている。発達期の小学生の夜間の活動になるため、十分に検討する必要がある。



滝の宮グラウンド

自然エネルギーへの転換を

—町長— 補助制度創設に向け検討

大橋 富造 議員



個人住宅用に取り付ける太陽光発電装置への補助制度を設けていないのは、近隣1市4町の中では多賀町だけである。設置するには、高額

個人住宅用に取り付ける太陽光発電装置への補助制度を設けていないのは、近隣1市4町の中では多賀町だけである。設置するには、高額

投資となるが、国、県、市町の補助を考えれば、負担は比較的軽減できる。原発に代わる自然エネルギーへの転換に向けて公共施設での活用と合わせ、補助制度の創設と再生可能エネルギー固定価格買い取り制度に合わせた環境施策としても有効な施策を一步踏み出してはどうか。

町長 近隣自治体の補助制度を参考にし、住宅リフォームと太陽光発電をセットにした補助制度創設に向け検討していく。また、国の再生可能工



県の防災救助訓練

芹川の治水対策は

芹川の総合的な治水対策の中で、自然環境、景観に配慮した治水対策を県に要望する内容は、また、今こそ町民の「共助」に向けた取り組みが大事だと思いが。

防災と景観上必要

副町長 防災の観点から芹川の総合的な治水対策を早急に進めるよう、町や芹川治水対策連絡協議会など、各方面から県に引き続き要望し、加えて、芹川の久徳地先の大手橋から下流域は県の芹川景観形成区域にも指定されており、周辺の田園風景や集落と調和のとれた河川景観形成を図るよう、強く要望したい。

地震対策は

災害緊急時の避難場所の表示看板もなく、避難場所での自家発電もなく一刻も早く設置し、防災意識の高揚にも結びつくと考えるが。

表示看板を設置

副町長 拠点避難所には避難対象地域を明記した表示看板を設置の方向で考える。拠点避難所の常設設置は皆無であり、今後検討したい。



各地に広がる森林被害

獣害で森林産業が危機に



産業環境課長

シカの駆除を積極的に

竹内 薫 議員

森林保護の対策として、現状と今後の方策は。

産業環境課長 獣害対策には、個体数管理、生息地管理、防除があり、バランス良く組み合わせた対策が必要である。防護柵の設置、チユーブの設置、忌避剤の散布など効果があがっている。シカの駆除にあつても県の目標1600頭に届くよう考えたい。

近年、シカによる森林への被害被害が急加速している。植林をすれば先端部を食われ、何度となく植林の繰り返し。成木にあつては樹皮を食われ立ち枯れている。このままでは森林産業の危機である。



老朽化が進む一ノ瀬橋

橋梁長寿命化工事と 林道の整備は 安全確保に努める

一町長一

川岸 真喜 議員



長寿命化工事の特徴、今後のスケジュールは、住民の理解は得られているか。工事の際の迂回路として使用される林道上山線は土砂崩れなど危険な箇所があるが、整備の予定はあるか。また安全対策は。

町長

新しく架け替えることは財政面、技術面から難しく、長寿命化工事が最善の策である。住民の皆さんにも理解を求めている。

一ノ瀬橋、仏ヶ後橋については、新橋への架け替えではなく、長寿命化工事を行うことになった。

長寿命化工事の特徴、今後のスケジュールは、住民の理解は得られているか。

工事の際の迂回路として使用される林道上山線は土砂崩れなど危険な箇所があるが、整備の予定はあるか。また安全対策は。

就労前の障がいをもつ 子どもたちへの支援を 湖東圏域全体で対応

一町長一

菅森 照雄 議員



養護学校に通っている子どもたちは、放課後また春休み、夏休みなどの長期の休みに学童保育が利用できず、町内には活動する場がない。休み中は、町外の施設に支援を求め、複数の施設に日中一時支援の利用申請をしなければならぬ。

町長

日中一時支援は、開業日や定員などで充足していないが、今後、二丁目に沿ったサービスができればよい。学童保育の利用については、集団生活が可能な生徒にかぎる。本町に支援施設はないが、管内には複数の事業所があるので利用していただきたい。今後、湖東圏域全体の課題として取り組みたい。春・冬休みの支援については、保護者に対しては、利用アンケートを実施し、結果を待つて対応したい。



甲良養護学校の運動会

新たな道路拡充策は まずは2路線の 完成を

一地域整備課長一

田畑 喜久弘 議員



受診率をアップさせていく。産科医師不足の問題は解消されておらず、彦根市立病院の助産院と民間2院で出産に対応している。人材育成については、滋賀医大と県立大の看護学生の実習を受け入れている。

多賀町内への通勤者増加に伴い、新たな道路拡充策はあるか。

史跡の公園化は

多賀町内への通勤者増加に伴い、新たな道路拡充策はあるか。

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

道路整備に取り組みたい。町道久徳中川原線、町道小森池線が完成すれば、通勤、通学時の渋滞の緩和が望める。道路拡充はこの2路線の完成後に考えていく。

生涯学習課長

多賀町総合計画の周知は 町民と話し合える場を できるだけ早い時期に

一町長一

原田 亀雄 議員



意見交換できる場が設けられるよう努めたい。町民への周知徹底は、町職員への周知徹底と各部署間の連絡調整は。町ホームページで紹介、昨年の6月には、総合計画の概要版小冊子、たがゆいちゃんの未来絵日記」を全戸配布した。全部署の所長に、関係小冊子を配付し、各種会議で計画の確認、調整を図っている。

町長

今後、5年位のビジョンを示し、町民の皆さんのお考えを聞かせてもらえる場も必要だと思っっている。できるだけ早い時期に

この計画を遂行するには、住民の皆さんのご理解とご協力が不可欠で、同時に大切なのは、計画を実行する町職員が理解し、その役割を認識して行動することです。そのためにも、それぞれにしっかりと説明し、周知徹底を図らなければならぬ。



ホームページから見た第5次総合計画

これからの 100年へ

工場長 藤本 淳司

昨年、ワダカルシウム製薬は、日本で初めてカルシウム錠の製造を始めてから100周年を迎えることができました。
この間、「骨と健康」の先駆者として、「骨が丈夫であれば元気に歩き続けられる」をモットーに、カルシウム錠をはじめとする高品質な商品をお届けしてきました。

社員一同、「お客様の喜びを自分の喜びに」と言う気持ちを常に胸に抱き、日々の業務に励んでおります。

滋賀工場は、医薬品GMP適合工場で滋賀県のS・HACCPの認証も取得しており、医薬品から健康食品に至る全てにおいて、常に高品質な製品の提供を心掛けております。

ワダカルシウム製薬・滋賀工場

現在、滋賀工場では、40名ほどの従業員が日々お客様ひとり一人のことを思いながら、更なる品質向上を目指し、研究開発や生産に勤しんでおります。
我々は今後もお客様からの声を糧に今まで以上に精進し、当社の伝統に恥じない製品作りを続けていきたいと思っております。
当社のこれからの100年に「ご期待ください」。

第10回 たがととも尼 ワダカルシウム製薬・滋賀工場

多賀で

過ごした1年

私は、昨年4月、当社がカルシウム錠製造100周年を迎える記念すべき年に滋賀工場工場長として着任しました。

当初は日々の忙しさに翻弄され、自宅と工場を往復するだけの毎日でしたが、少し落ち着いた夏過ぎから多賀町や隣の彦根市などを散策し、自然の中に歴史と文化が漂うその素晴らしい景色を徐々に実感することができました。

また、年始に初詣で訪れた「多賀大社」の荘厳さに圧倒されるとともにその由緒正しい歴史に魅了されました。

まだまだ、初心者であります。初めは夏に「河内の風穴」、秋には湖東三山の紅葉巡りなどもぜひ、体験したいと思



ワダカルシウム製薬100周年記念会

います。

これからも地元根差した工場運営に励むとともに、湖東の歴史、文化や自然を思う存分、堪能したいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

編集後記

簡単と思われることが、意外とできていない。「こうすればうまくいくのに」とか「少し面倒だからやめておこう」など、日ごろから思ったり今まで思ったことにはあるけど、行動に移してないことを、いまいちど思いおこし、この際一歩前へ踏みだしたら、自分も、周りも変わるかもしれない。

できないから、始めないのではなく、まず第一歩を踏み出そうと思う。意識がかわれば、行動も変わるはず。議会改革も行政改革も、案外、気持ちを引き替えることから始まるのでは……。

原田 亀雄 記